

科目名	保育者論	担当教員	仲間 優子
科目コード	320001	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要（テキストによる通信教育）／ 試験対策ポイント

1.「保育者論」とは 保育者に求められていることとは何か 2.「保育者の役割・職務内容」 保育者とはどのような仕事なのか 3.「保育者の倫理」 保育者にはどのような倫理が求められているか 4.「保育者の制度上の位置づけ」 児童福祉法における定義や保育者の資格と責務について 5.「保育士の専門性①」 保育者に必要な資質・能力とはについて 6.「保育士の専門性②」 養護及び教育の一体的展開について 7.「保育士の専門性③」 家庭との連携の在り方と保護者に対する支援について 8.「保育士の専門性④」 計画に基づく保育の実践と省察・評価の在り方について 9.「保育士の専門性⑤」 保育の質の向上をさせる具体的手立てについて 10.「保育における職員間の連携・協働」 共に働く職員間の望ましい連携・協働について	11.「専門職間・専門機関との連携・協働」 保育現場における専門機関との連携や協働がどのように行われているか 12.「関係機関との連携」 地域における自治体や関係機関との連携と協働について 13.「保育者の資質向上に関する組織的取り組み」 保育者としての資質を高めるための意義や方法について 14.「保育者のキャリア形成」 保育者の専門性とキャリア形成の意義について 15.「保育におけるリーダーシップ」 保育所保育指針におけるリーダーの役割について 【試験対策ポイント1】 保育所保育指針での「養護」と「教育」の内容をしっかりと確認しましょう。また、幼稚園での「教育」について理解したうえで、「養護」と「教育」の一体性についての事例を記述してください。 【試験対策ポイント2】 現代社会の現状の課題等（支援が必要な子ども、虐待問題等）を踏まえながら、保育所における家庭との連携や保護者支援の必要性、子育て支援の基本について述べてください。
---	---

授業修了時の達成目標

- 保育者の役割と倫理、制度上の位置づけ等について理解し、説明できる。
- 家庭との連携、関係機関との連携や協働はどうあるべきかを理解し、説明できる。
- 保育者の専門性とキャリア形成の取組や意義について理解し、説明できる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・新 基本保育シリーズ⑦ 保育者論 （中央法規出版） ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	こども家庭支援の心理学	担当教員	宮城 元子
科目コード	320002	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

まず、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、発達に応じた子どもとの関わりを学ぶ。次に、家族・家庭の意義や技能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について、発達の観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を学ぶ。また、子育て家庭に関する現状と課題についても学ぶ。さらに、子どものこころの健康にかかわる問題を理解し、適切な対応について考えていく。

1. 生涯発達：乳児期／幼児期／学童期／青年期／成人期・中年期／高齢期の発達

2. 家族・家庭について：

- ・家族・家庭の意義と機能と向き合い方／ ・家族関係、親子関係の理解と支援／
- ・子育て経験と親としての育ち

3. 子育てを取り巻く社会的状況：

- ・ライフコースとその視点を活かした子育て支援／ ・多様な家庭とその理解とその支援／
- ・特別な配慮を要する家庭の理解とその支援

1. 子どものこころの健康にかかわる問題：子どもの気になる行動とその支援

【試験対策ポイント1】

マルトリートメントとは何かを具体的に述べられるようになります。また、逆境的小児体験についても簡単に説明し、生涯にわたってどのようなことがおこると考えられているか、より具体的に説明できるようにしましょう。

【試験対策ポイント2】

テキスト第 15 講をよく読み、子どもの習癖や発達障害などの中から、関心のあるものを 1 つ取りあげ、具体的な行動、原因などについて述べましょう。そのうえで、それを改善するために保育士としてどのような関わりをすることが必要か、テキスト等をよく読み、あなたの意見も加えましょう。

【試験対策のポイント3】

テキストの第13講をよく読み、トラウマなどのきつい体験を受けた子どもや保護者に対応した際に保育士に起こると考えられる心の動きを理解しましょう。さらに、保育士自身が心理的にきつい状態にならないようにするための方法を、複数考えましょう。自分自身の対策も考えてみるとよりよいでしょう。

授業修了時の達成目標

上記の 4 つの視点について理解し、保育士として適切な関わりについて、自分なりの意見をもつことができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 子ども家庭支援の心理学	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こどもの保健	担当教員	水川 知恵
科目コード	320003	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

- 第1講 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的
- 第2講 健康の概念と健康指標
- 第3講 現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策
- 第4講 地域における保健活動と子ども虐待防止
- 第5講 身体発育及び運動機能の発達と保健
- 第6講 生理機能の発達と保健
- 第7講 健康状態の観察及び心身の不調等の早期発見
- 第8講 発育・発達の把握と健康診断
- 第9講 保護者との情報共有
- 第10講 主な疾病の特徴① 新生児の病気、先天性の病気
- 第11講 主な疾病の特徴② 循環器・呼吸器・血液・消化器の病気
- 第12講 主な疾病の特徴③ アレルギー・免疫・腎泌尿器・内分泌の病気
- 第13講 主な疾病の特徴④ 脳の病気・その他の病気
- 第14講 主な疾病の特徴⑤ 感染症
- 第15講 子どもの疾病の予防と適切な対応

【試験対策ポイント1】

- (1) 上掲の安全施行規則について概要を理解し、整理しましょう。
- (2) 上掲の安全施行規則における第二種の感染症について整理しましょう。
- (3) 参考資料:「保育所における感染症対策ガイドライン(2018年改訂版) こども家庭庁

【試験対策ポイント2】

- (1) SIDS の概要を理解し整理しましょう。
- (2) SIDS 発症の危険因子を整理し、育児の上でのポイントをまとめましょう。
- (3) 参考資料:「乳幼児突然死症候群(SIDS)について」 こども家庭庁・MSD マニュアル家庭版

授業修了時の達成目標

1. 子どもの保健、健康について、発達段階をおさえて理解する。
2. 子どもの保健の基本をおさえて、発育・身体機能・疾病との関連・予防・養護について理解する。
3. 保育環境、衛生管理、安全対策について理解する。
4. 母子保健について理解し、家庭、専門機関、地域との連携について考察する。
5. 現代の子どもの抱える様々な背景(環境)によって引き起こされる状況を把握し、よりよい保育環境を提供できる専門家としての基盤を作る。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新 基本保育シリーズ⑪ 子どもの保健 (中央法規出版)	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こどもの食と栄養	担当教員	笠原 寛子
科目コード	320004/320005	授業形態	印刷/面接
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

乳児期の食は、生命の維持と生活活動、発育のために必要なエネルギーや栄養素の補給を目的とする。十分な保護のもとで未熟な食機能や精神発達に対応することが、食生活の基礎づくりに大切である。そのため保育には、子どもの食と栄養についての深い理解が欠かせず、また、自分自身でバランスのよい食事を調理できること、そして保護者支援など、家庭を見据えた食育の実践も必要となる。これらを踏まえて学習をする。

特に下記のポイントをおさえて学習をすすめ、理解を深めること。

①小児期の健やかなよりよい成長と生涯にわたる健康づくりのための食・栄養に関する基礎的な知識を子どもの発育発達という特徴を踏まえて学ぶ。

②栄養素は、食物の中に含まれているさまざまな物質のうち、生命活動を営むため人間の身体に必要な成分であり、炭水化物、たんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラルに分類される。その各栄養素のはたらきをしっかり理解し学ぶ。

③それぞれの時期に望ましい食生活のあり方、食育の重要性について、学び、適した食物の摂取や食育指導方法を習得する。

＊離乳食の定義と必要性、進め方、食事のめやす、離乳の完了について学ぶ。

＊幼児期の成長、発達にともなう「おやつ」の重要性を理解し、おやつとの与え方を具体的に学ぶ。

・その他下記の項目についてテキストから学習する。

1. 子どもの健康と食生活の意義
2. 栄養に関する基本的知識(栄養の基本、栄養素の種類とはたらき)
3. 日本人の食生活の目標
4. 献立作成・調理の基本
5. 乳児期の授乳の意義と食生活
6. 乳児期の離乳の意義と食生活
7. 幼児期の心身の発達と食生活
8. 学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活
9. 保育における食育の意義・目的と基本的考え方
10. 食育の内容と計画及び評価
11. 地域や家庭と連携した食育の展開
12. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
13. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養

スクーリング

・通信教育(レポート・科目試験)の理解を深め、保育者として子どもの栄養と食生活支援のあり方を学ぶ。

・保育所における食に関する保護者支援と地域連携について学ぶ。

・演習を通して食生活の支援、食育の実践方法を学ぶ。

・自分自身の食生活を評価し、望ましい食生活を理解する

授業修了時の達成目標

- ・小児期の食生活は生涯にわたる健康の基盤となることを理解する。
- ・子どもの発育・発達段階に応じた、栄養と食生活の意義や役割について知識を身に付け、保育者として適切な食事支援の方法を習得する。
- ・栄養の基礎的知識を身に付け、自分自身の食生活、保育現場において柔軟な対応ができるようになる。
- ・現在の子どもを取り巻く食に関する環境と課題について理解し、保育者としてより効果的な食育を実践できる能力を身に付ける。
- ・食物アレルギー対策、疾病のある子どもの食支援等の知識を身に付ける。

【試験対策ポイント1】

- ・離乳食の意義と必要性を理解し、述べなさい。
- ・初期～完了期までの各期のこどもの発育状況を踏まえて述べなさい。
- ・教科書「第7講 乳児期の離乳の意義と食生活」「授乳・離乳の支援ガイド(2019年改訂版)」等を参照すること。

【試験対策ポイント2】

- ・幼児期は、生涯にわたる食生活の基礎が形成される時期であることを理解し述べなさい。
- ・幼児期における咀嚼の重要性について理解し述べなさい。
- ・教科書「第8講 幼児期の心身の発達と食生活」等を参照すること。

【試験対策ポイント3】

- ・栄養は、人間の身体や心(神経)を作り、生存活動に欠かせないことを踏まえ、各栄養素のはたらきを理解し、明確に記述する。
- ・各栄養素を含み、食品を把握する。
- ・教科書「第3講 栄養素の種類をはたらき」等を参照すること。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
【教科書】 新・基本保育シリーズ・子どもの食と栄養 【参考資料】 授乳・離乳の支援ガイド(2019年改定版) 厚生労働省 平成27年度 乳幼児栄養調査結果の概要 - 厚生労働省	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	
	スクーリング	100.0%	

科目名	保育内容総論	担当教員	島 朋子
科目コード	320007	授業形態	演習
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ	時間数	15 時間

授業概要（スクーリングによる通信教育）

・保育内容総論とは何か、保育内容や保育方法が園生活において、どのような仕組みで子ども達の発達を支えているか遊びの演習を通して学ぶ。

・保育所保育指針と幼稚園教育要領及び幼児期に育って欲しい 10 の姿を通して、子どもや子ども集団の発達や特性、発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を修得し、保育内容と子どもの理解とのかかわりについて学ぶ。

・子どもの生活全体を通して、養護（生命の保持と情緒の安定）、教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体となり展開することを事例やDVD教材を用い、グループ演習を通して学ぶ。

1. 保育内容総論とは …… ワークを通して学ぶ

2. 保育内容とは …… 養護と教育の一体化

保育内容の歴史的変遷

3. 幼児期までに育って欲しい 10 の姿について学ぶ

4. 遊びや生活を通して学ぶということ …… グループワーク及びDVD視聴を通して学ぶ

5. 遊びや生活を通して学ぶということ …… //

6. 遊びや生活を通して学ぶということ …… //

7. 領域と保育内容

8. 保育の計画と記録

9. 指導案作成

10. 授業の振り返りテスト

授業修了時の達成目標

・保育所保育指針における、「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」、「10 の姿」を関連付けて保育内容を理解すると共に、主体的で対話的な深い学びと結びつけて、保育の全体的な構造を理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
指定図書：なし 適宜資料配布 DVD教材 ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領 ・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 ・新保育講座 4 保育内容総論「第 2 版」	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	こどもと健康	担当教員	仲里 直哉
科目コード	320008	授業形態	印刷
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

○生活や遊びを発展させながら、子どもの健康な心と体を育てる保育者になるために、テキスト「こどもと健康」を熟読し、子どもの健康についての理論と実践を学ぶ。

1. 健康に生きる
2. 発育と発達
3. 子どもを取り巻く環境の現状と健康課題
4. 保育における領域「健康」①
5. 保育における領域「健康」②
6. 子どもの健康と生活習慣
7. 食育と栄養
8. 子どもの運動遊び
9. 運動遊びの計画と評価
10. 運動と環境
11. 子どもの事故や病気、危機管理について

【試験対策ポイント1】

第 8 章の「子どもの運動遊び」の第 1 節の遊びと運動の(2)生活のなかにみる動きを理解して、具体例をまじえて説明すること。その動きを引き出すための環境構成や保育者の援助を第9章「運動遊びの実践」の第3節の運動 が不得意な子への支援を参考に説明すること。

【試験対策ポイント2】

第 2 章の「発育と発達」の第 2 節の姿勢・運動系の発達の(3)上肢の安定性の獲得を理解して、具体例をまじえて説明すること。

授業修了時の達成目標

- ・子どもを取り巻く環境の現状を理解し、「基本的な生活習慣」や「食育」、「心と体」について学ぶ
- ・「安全保育」や「危機管理」について理解を深める。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
保育者をめざすあなたへ こどもと健康	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こどもと言語 I	担当教員	平田 直人
科目コード	320009	授業形態	印刷
単位数	1 単位	必修・選択	必修

授業概要（テキストによる通信教育）／ 試験対策ポイント

【学習の目的・ねらい】

- ・乳幼児の発達と言葉、環境との関わりについて理解を深め、基本的な知識を習得する
- ・幼稚園教育要領、保育指針に示されている「言葉」の内容について理解する
- ・年齢や場面に応じた言葉かけや児童文化財を活用した援助とかかわりについて理解する
- ・様々な視点からの言葉の育ちをとらえ、それを保育評価に生かす視点をもつ

【概要】

1. 人の生活と言葉

(1)言葉とは何か (2)言葉が人間生活の中で果たす役割・機能 (3)乳幼児の言葉の特色

2. 乳幼児の言葉の発達と環境

(1)子供の発達と言葉 (2)言葉の発達と環境 (3)言葉に関する問題の理解と園における対応

3. 領域「言葉」のねらいと内容

(1)子どもにとって言葉とは (2)幼稚園教育要領、保育指針に示された「言葉」に関する内容

(3)幼保連携認定こども園の「教育・保育要領」

4. 領域「言葉」の具体的な内容

(1)聞く力 (2)言葉による表現 (3)考える・想像する力 (4)簡単な標識や文字・記号などへの興味・関心

5. 言葉かけを中心としての援助とかかわり

(1)0～3 歳児と保育者のかかわり (2)4～5 歳児の活動と保育者のかかわり

6. 児童文化財を通しての援助とかかわり

(1)お話 (2)絵本 (3)紙芝居 (4)パネルシアター (5)おもちゃ (6)テレビ

5. 言葉の育ちをとらえる視点

(1)様々な視点から言葉の育ちをとらえる (2)言葉と保育評価

【試験対策ポイント】

※どのポイントもテキスト第 3 章を基礎とする。

1. テキスト第 6 章を熟読し、保育の現場、子どもの実態と関連づけながら理解を深める。

2. テキスト第 5 章を熟読し、子どもの発達段階や活動を思いうかべながら、理解を深めること。

3. テキスト第 7 章を熟読し、様々な視点からの言葉の育ちをとらえ、テキスト第 2 章を参考にしながら、自分なりの評価の視点をもつ。

授業修了時の達成目標

- ・乳幼児の発達と言葉、環境との関わりについて理解し、基本的な知識が習得できた
- ・幼稚園教育要領、保育指針に示されている「言葉」の内容について理解できた
- ・年齢や場面に応じた言葉かけや児童文化財を活用した援助とかかわりについて理解できた
- ・様々な視点からの言葉の育ちをとらえ、それを保育評価に生かす視点をもてるようになった

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
子どもと言語<新訂第 2 版> 萌文書林	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	乳児保育 II	担当教員	照屋 恵
科目コード	(スクーリング) 320011	従業形態	演習
単位数	1	必修・選択	必修
コマ数	8コマ	時間数	10時間

授業概要(スクーリング)

「乳児保育 II」では「乳児保育 I」で学んだことをもとに、保育士として現場に立った際の基本的知識や技能への理解を深める。演習を通して様々な場面での対応の在り方を習得し、乳児保育に求められる保育士としての基本姿勢・資質への理解をさらに深め、実践できるようにする。

1. 乳児保育の基本
2. 子どもの生活の流れ(0歳児クラス)
3. 子どもの保育環境(0歳児クラス)
4. 子どもの援助の実際(0歳児クラス)
5. 子どもの生活の流れ(1歳児クラス)
6. 子どもの保育環境(1歳児クラス)
7. 子どもの援助の実際(1歳児クラス)
8. 子どもの生活の流れ(2歳児クラス)
9. 子どもの保育環境(2歳児クラス)
10. 子どもの援助の実際(2歳児クラス)
11. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
12. 集団での生活における配慮
13. 環境の変化や移行に対する配慮
14. 長期的な指導計画と短期的な指導計画
15. 個別的な指導計画と集団の指導計画
16. おもちゃ作りを通して子どもの発達を理解する
17. 沐浴実習

授業修了時の達成目標

- *乳児保育に求められる基本的な知識・技能や考え方を説明できる
- *乳児保育に求められる基礎的な技能について実践できる
- *専門職としての保育士の立ち位置を深く理解し、自主的・主体的な学習を実践できる
- *受講者同士で意見の相違を尊重し共同的な学習を実践できる

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ⑮ 乳児保育 I・II (中央法規出版)	授業態度	10%	
	課題(製作)	30%	
	レポート課題	30%	
	復習試験	30%	

科目名	障がい児保育	担当教員	酒井 洋
科目コード	320012/320013	授業形態	印刷/面接
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

1. 障害の概要と対象
 2. 障害児保育の歴史的変遷
 3. 知的障害の理解と支援
 4. 自閉症スペクトラム障害の理解と支援
 5. 注意欠如・多動性障害の理解と支援
 6. 肢体不自由児の理解と支援
 7. 視覚・聴覚障害の理解と支援
 8. インクルーシブ保育と特別支援教育
 9. 指導計画の作成と記録および評価
 10. 地域の専門機関との連携
 11. 保護者や家庭に対する支援
 12. 諸検査による客観的なことも理解
 13. 療育とは
 14. 発達支援の技法（特に TEACCH プログラムと感覚統合理論）
 15. 障害児保育をとりまく（医療・保健、福祉、教育の）現状と課題
- 【試験対策ポイント1】自閉症スペクトラム障害児について
1. 聴覚より視覚からの情報がとらえやすいこと。
 2. 全体より部分（細部）に注意が集中すること。
 3. 物事を総合的に判断する力が弱いこと。などの特徴を説明し、それぞれの支援のポイントを述べる。
- 【試験対策ポイント2】注意欠如・多動性障害児について
- 多動性の特徴であるじっとしてられないことの原因と具体的な特徴を述べ、それを正しく理解することの意義と支援のポイントについて述べる。
- 【試験対策ポイント3】
- 抽象的思考や判断が苦手な理由を説明し、コミュニケーションの仕方の工夫について述べる。

授業終了時の達成目標

1. ノーマライゼーションの理念と障害児保育の実践が共通するものであることを理解する。
2. 対象となる障害について基本的な理解と保育支援方法を習得できている。
3. 関係機関との連携によって、安全・安心な保育実践が提供できることを理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
よくわかる障害児保育 第2版	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	
	スクーリング	100.0%	

科目名	保育実習Ⅰ（保育）／（施設）	担当教員	仲間 優子
科目コード	（保育実習Ⅰ 保育所）320015 （保育実習Ⅰ 施設）320016	授業形態	実習
単位数・日数	4 単位 （保育実習Ⅰ 保育所）11 日間 （保育実習Ⅰ 施設）11 日間	必修・選択	必修

授業概要

実習期間：11日（90時間）

実習時期：7月～2月 ＊保育・施設どちらを先に実施してもよい

実習先：（保育）保育所、幼保連携型認定こども園、小規模保育 A 型

（施設）保育所以外の児童福祉施設およびその他の社会福祉施設

<目標>

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

授業修了時の達成目標

乳幼児への理解を深めるとともに、保育所と保育士の役割を現場体験を通して理解する。さらなる学習に向けて学習課題を見出す。

施設利用者との関わりや地域の福祉ニーズについて理解を深める。施設保育士の業務について理解し、業務を遂行するための知識や技術を身につける。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	実習	100.0%	

科目名	保育実習指導 I	担当教員	仲間 優子
科目コード	(レポート・科目試験)320017 (スクーリング)320018	授業形態	印刷・演習
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要 (スクーリング) / 試験対策ポイント

〔授業の目的・ねらい〕

- 1 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園、児童福祉施設とは何かを知る。
- 2 実習の流れと実習上の留意点を理解する。
 - ① 観察実習、参加実習、責任（部分）実習とは何かを学ぶ。
 - ② 社会人としてのマナーや、報告・連絡・相談（ほうれんそう）についても知る。
- 3 実習課題の設定、実習簿の書き方、指導案の立て方を学ぶ。

〔授業全体の内容の概要〕

- 1 実習の意義・目的を理解する
- 2 保育実習に向けてのマナーと心得
- 3 保育実習の計画・準備の確認、保育実習日誌の書き方
- 4 実習の目標や実習課題の設定
- 5 保育に活かす教材と実践例（自己紹介等）
- 6 保育実践および指導案について

授業概要 (テキストによる通信教育)

実習体験から自己課題を見出し、次の実習に対して目標を明確にして臨

I → II・III、実習生 → 保育者への架け橋になるのが事後指導（振り返り／省察）である。

〔授業の目的・ねらい〕

- ・実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を設定する。

【試験対策ポイント1】 児童福祉法だけでなく、施設の役割、特徴等も整理しましょう。

【試験対策ポイント2】 対象年齢を決め、その年齢の発達を踏まえながら具体的に述べられるようにしましょう。

授業終了時の達成目標

(スクーリング)

- ・実習に関するマナーを理解するとともに、子どもの生活や遊びにおける関心をもって実習に臨む。
- ・実習の意義や目的の理解、知識・技術の確認等を行う。
- ・実習日誌の書き方および指導計画の立て方を身につける。

(レポート・科目試験)

- ・保育実習の意義・目的、児童福祉施設の役割について理解できる。
- ・実習の振り返りと自己評価を行い、次の実習課題や学習目標を設定する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	(レポート・科目試験)		
	試験	100%	
	レポート	100%	
	(スクーリング)		
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	こども学概論	担当教員	平田 直人
科目コード	320014	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

こども学は、こどもを様々な角度からとらえ、こどもとは何かを総合的に考えるものです。

こどものとらえ方として、医学、心理学、看護学といった生理学的な視点、こどもの表現活動やイメージ、こどもを取りまく環境など多くの学問領域を学びます。

【試験対策ポイント1】

・アタッチメントがこどもの発達にどのような影響を与えるのか、具体例を理解するとともに、アタッチメントを形成する上で必要な保育者、保護者の関わり方について述べられるようにしましょう。

【試験対策ポイント2】

- ・「主体的」とは何か述べましょう。
- ・事例を挙げ、保育者の役割についてあなたの考えを整理しましょう。

参考資料等：

子ども学がやってきた（一藝社）

保育所保育指針 幼稚園教育要領

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

【試験対策ポイント3】

テキスト第4章～第7章を熟読して、その意義や子どもの関わりを学びながら、保育者の役割・視点を考える。

授業修了時の達成目標

こどもの成長発達の一般的な特性と家庭を理解する。

こどもの自由な発想への環境構成、援助のあり方を理解する。

こどもを取り巻く環境について理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
子ども学がやってきた	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こどもと造形Ⅱ	担当教員	平良 亜弥
科目コード	320019	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

- 1 幼児の造形表現の意義
- 2 発達段階と造形表現の特徴
- 3 人間の完成と表現の関係性
 - ・線、形、色について
 - ・評価と声かけ
 - ・「描く」と発達段階
 - ・「つくる」と発達段階
- 4 造形表現の歴史
- 5 造形に発展する素材と表現方法の広がり
 - ・「描く」造形表現
 - ・描画材と描画の技法
 - ・「つくる」造形表現
 - ・「つくる」材料とその技法
- 6 地域環境の場と幼児の造形表現の関わり

【試験対策ポイント1】

テキストを参照しながら、自身の言葉でまとめられるようにしましょう。

幼児の発達段階と造形表現の特徴(p9～)、演習2(p18～)、

幼児の発達段階と描画の展開(p21～)

参考書:『幼児の造形表現Ⅱ』ななみ書房

【試験対策ポイント2】

テキストを参照しながら、自身の言葉でまとめられるようにしましょう。

幼児の発達段階と造形表現の特徴(p9～)、幼児の発達段階と造形活動の展開(p31～)

参考書:『幼児の造形表現Ⅱ』ななみ書房

授業修了時の達成目標

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
幼児の造形表現Ⅱ (ななみ書房)	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	